

中央図書館開館一周年記念

第58回 九州大学附属図書館貴重文物展示

入場
無料

一九三〇年代の 九大アジア研究と北京



2019年

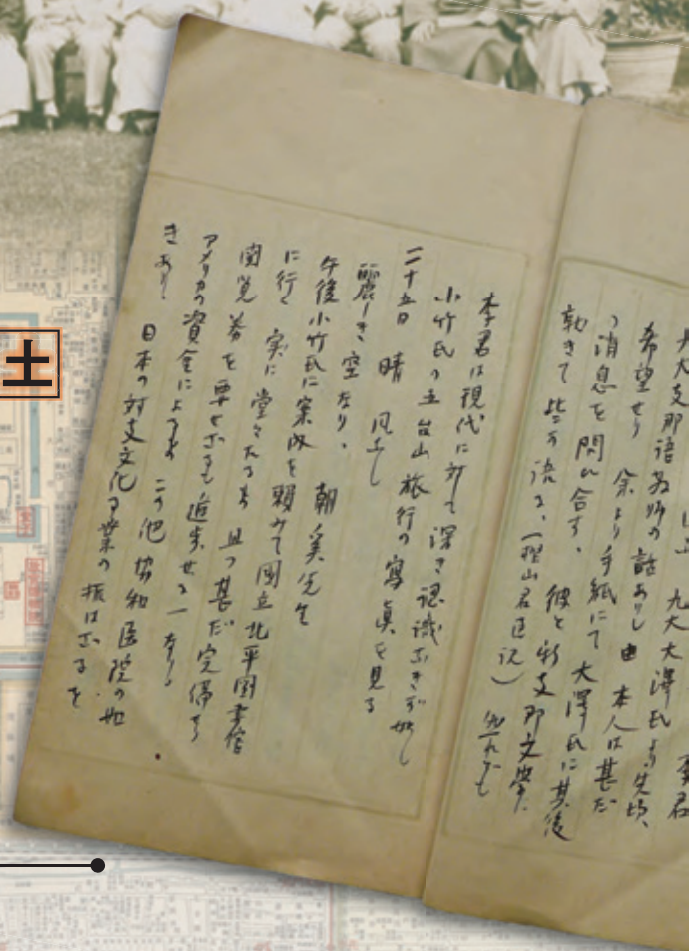
11月7日[木]~11月16日[土]

開場時間 10時~18時

会 場 九州大学中央図書館
(〒819-0395 福岡市西区元岡744)

主 催 九州大学附属図書館

特別協力 大野城心のふるさと館



● 講演会 ●

一九三〇年代の九大アジア研究と北京
新発見の目加田誠『北平日記』を読み解く

講演者: 静永 健 氏 (九州大学人文科学研究院 教授)

日 時: 2019年11月9日(土) 14時~15時30分(開場13時30分)

会 場: 九州大学中央図書館4階 きゅうとコモンズ

入場無料・事前申込不要

一九三〇年代の 九大アジア研究と北京

今をさかのぼること95年前の1924（大正13）年、九大箱崎キャンパスに九州帝国大学法文学部が設置されました。今日の文系四学部（文学部、教育学部、法学部、経済学部）の出発点はここにあります。

文系の学問に欠かせないものが書籍および文献資料です。翌1925（大正14）年に建設された附属図書館本館は、現在の九州大学中央図書館の母体の一つです。当館には、設立まもない1930年代前後に収蔵された多くの外国書籍がありますが、中でも中国北京から購入された漢籍は量も多く、貴重なものも少なくありません。実はこれらの収集は、当時九大で教鞭を執っていた教授や職員たちの弛まぬ奮闘努力の結果でもあります。今回の展示は、当館所蔵の資料とその他の貴重な記録をもとに、1930年代の日本と中国の学術交流にスポットをあてています。



30歳誕生日の目加田誠
（目加田家所蔵のアルバムより）



唐晏『兩漢三国学案』（九州大学附属図書館蔵）



昭和9年9月23日中秋節、東方文化事業での月見の宴（目加田家所蔵のアルバムより）



目加田誠『北平日記』全8冊（大野城心のふるさと館蔵）

目加田誠（めかだ まこと 1904～1994）

九州大学文学部中国文学講座の初代教授。1933年、29歳で着任。日本の中国学のパイオニアの一人であり、『詩経』の現代語訳や、元号「平成」制定時に、最終候補案の一つを提出したことで有名。

『北平日記』

目加田誠の北平（今の北京）留学日記。氏の没後、ご自宅から発見された。戦前の北京市街の様子や、そこでの国籍を超えた研究者同士の交流が克明に記されている。このたび翻刻出版され、貴重な歴史資料として日本のみならず中国の研究者からも高く評価されている。大野城心のふるさと館所蔵。

講演会

一九三〇年代の九大アジア研究と北京 新発見の目加田誠『北平日記』を読み解く

講師＝静永 健 氏（九州大学人文科学研究院 教授）

日時＝2019年11月9日（土）14:00-15:30（開場 13:30）

会場＝中央図書館4Fきゅうとコモンズ

九州大学附属図書館 中央図書館（伊都キャンパス）



九州大学附属図書館
Kyushu University Library

〒819-0395 福岡市西区元岡744
TEL 092-802-2481
E-Mail touservice@jimu.kyushu-u.ac.jp
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>

主催＝九州大学附属図書館 特別協力＝大野城心のふるさと館

